

2019年度 JROSG 海外出張支援報告書

順天堂大学 放射線治療学講座 川本晃史

JROSG海外出張支援のもと、第61回米国放射線腫瘍学会（ASTRO）にて高齢者食道癌に対するドセタキセル併用放射線治療の安全性の検討についてまとめた結果を発表させていただきました。この度のご支援に深く謝意を申し上げます。

学 会 名：第61回米国放射線腫瘍学会（ASTRO）

開催場所：シカゴ・アメリカ合衆国

開催期間：2019年9月15日~9月18日

発表形式：電子ポスター

演 題 名：Appropriateness of radiotherapy with concurrent docetaxel in elderly patients with esophageal cancer

発 表 者：Terufumi Kawamoto, Naoto Shikama, Masaki Oshima, Yasuo Kosugi, Kazunari Miyazawa, Mika Obinata, Kana Yamada, Yoshiaki Kajiyama, Masahiko Tsurumaru, Keisuke Sasai

発表内容:

【目的】

高齢者食道癌に対するドセタキセル併用の化学放射線療法（DOC-RT）の安全性の評価し、治療完遂の面からどのような症例で DOC-RT が適しているかを明らかにする。

【方法】

2009年1月から2018年5月までに76歳以上の食道扁平上皮癌患者に対する照射を行った204例中、根治照射目的でDOC（10 mg/m²、週1回投与、計6回を予定）併用のRTを行った73例を対象に遡及的解析に検討した。予定総線量は60Gy/30回で、原則通院治療とした。全生存率、有害事象（CTCAE 4.0）、治療完遂割合を評価した。栄養状態はGeriatric Nutritional Risk Index（GNRI）に基づき、併存疾患はCharlson Comorbidity Index（CCI）を用いてスコア化した。

【結果】

1/3/5年の全生存率は63/33/13%であった。急性期有害事象はGrade 3の悪心を5例、嚥下障害を3例、食道炎を5例、食道瘻を2例、肺臓炎を1例、晩期有害事象はGrade 3の嚥下障害を3例、胸水を2例、心嚢水を1例、肺臓炎を1例に認めた。4名は白血球減少と全身状態悪化、1名は白血球減少と疼痛で化学療法は中止され、2名は食道瘻、1名は肺炎でDOC-RTが中止となり、DOC-RTの完遂割合は89%（65/73例）であった。完遂群と比べて非完遂群で高齢（≥80歳）、低栄養（GNRI<92）の割合が多かった。

【結語】

高齢者食道癌に対するDOC-RTは致命的な有害事象なく、安全性の高い治療と考えられた。80歳以上の高齢者や栄養状態不良（GNRI92未満）はDOC-RTの適応判断の際に考慮すべき因子と考える。